

第40回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会を開催して

(2024年4月20・21日)

※ライトキューブ宇都宮とWeb配信のハイブリッド開催

岡田 嘉右衛門

岡田皮フ科耳鼻咽喉科クリニック院長

はじめに

第40回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会を宇都宮市のライトキューブ宇都宮で開催しました(図1)。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、世間は新型コロナ禍以前の姿に戻ろうとしています。われわれも以前の学会の姿に戻すよう、できればさらにもう一步でも前進できるように努力いたしました。学会参加登録者数1,693人中1,122人の方が現地参加してくださいました。

テーマ

今回は「皮膚科診療のセカンドエフォート」をテーマにしました。「セカンドエフォート」とはアメリカンフットボールの用語で、いま以上の結果を得るために「2回目(さらにもう少し)の努力を加える」という意味になります。ロゴマーク(図2)は40の数字に栃木県の名物であるイチゴ、餃子、雷などを組み込んで作成しました。

プログラム

特別講演では、「栃木県から生まれた



図1 大会関係者集合写真



図2 大会ロゴ

Dermatologist」として慶應義塾大学教授の天谷雅行先生に(図3)、また「栃木県にきたDermatologist」として自治医科大学教授の大槻マミ太郎先生に、さまざまなお話をさせていただきました。文化講演では白鷗大学学長の北山修先生と北里柴三郎先生の孫である北里大学名誉教授の北里英郎先生からお話を賜りました。また臨床実地に関連した30のシンポジウムと32のセミナーを企画しました。なお、2つのハンズオンセミナーや、勤務医委員会セッションおよび学校保健・在宅医療委員コラボセッションも用意しました。一般演題は118の登録がありました。マルホ・高木皮膚科振興財団協賛により、最優秀演題1名、優秀演題3名を選出し、表彰しました。

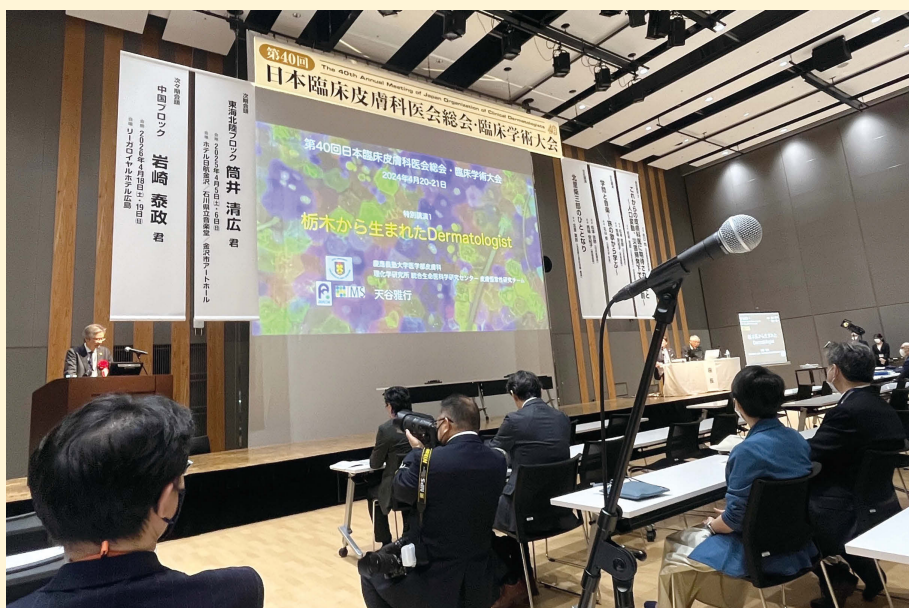


図3 天谷雅行先生の講演

40 回メモリアル

第40回日本臨床皮膚科医会総会の記念としてメモリアルルームを設置しました。歴代会長からの祝辞とともに、これまで開催された大会の紹介などをスクリーンで視聴できるようにしました。スイーツ&ドリンクサービスのほかにワンモックコーナー、日光の天然かき氷コーナー、地酒コーナーをつくりました。

娯楽

新型コロナ禍以来、久しく開催することができなかった懇親会を開催することができました(図4)。栃木の郷土料理をなるべく取り入れた料理と群馬、茨城、長野、新潟名産のアルコールでおもてなしをしました。アトラクションは栃木県ゆかりのお笑い芸人・U字工事に登場してもらい、会場を盛り上げていただきました。また宇都宮市は渡辺貞夫を輩出したジャズの街でもありますので、ジャズの生演奏も用意しました。なお本宴会場ならび



図4 懇親会の様子

場外のエントランスにおいて佐野ラーメン、豚の丸焼き、餃子なども出店しました。

観光に関しては、パンフレットのみならず会場内のスクリーンにてオリジナルで制作した映像を流しました。またエクスカッション(遊覧旅行)も企画しました。①大谷町トコテクハイキングコース、②若竹の杜若山農場コース、③岡田記念館コースの3コースです。

おわりに

全体的に多数のご参加をいただき、盛会のうちに終わることができました。これもひとえに各委員や座長、演者の先生方を含め皆様方のおかげです。心より感謝申し上げます。

なお来年の第41回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会は金沢で開催されます。